

百花繚乱

実力者が集結した、今季最大の激戦クラス

モータースポーツにおいて、マシンのバラエティ感や多彩なカラーは大きな要素だ。86、BRZにおいても様々なカラーやエアロパーツを身にまとったマシンが勢揃いし、出走前のハドックを華やかに彩る。スペック上は突出して速いわけでもなく、エンジンだって決してハイパワーなわけではない。しかしそこにはどこか“華”がある。やや早めの開花宣言とともにスタートしたPN3クラス、今季どんな色の花を咲かせてくれるのだろうか。

Text: PLAYDRIVE (編集部) Photo: Hirayuki TAKII (澤井宏之)



今や街中を走っているクルマは、右を見ても左を見てもミニバンやエコカーばかりの時代になってしまった。ただ、そんなクルマ世界にあって、クルマ好きが大喜びするクルマが登場してきた。それがトヨタ86、スバルBRZだ。なんといってもこの二時世にあって2ドアクーペというスタイルがいいではないか。しかも、超がつく高級モデルではなく誰でも手が届く価格設定というのもうれしい。最近ではそんな86、BRZも街中でもよく見るようになった。なんでも発売直後は1年ほど納車が先になると言われていたのが、最近では1カ月を切るほどになったらしい。まあ初期に飛びつくユーザーが減ったということかもしれないが、量産体制が整った証でもある。言い換えればそれだけ世の中に86、BRZが増えたと、ということもある。

「JAF登録年が2012年1月1日以降」という、あまりにも直球すぎるクラス区分で生まれたPN3クラスに、果たして思惑どおりにどれだけの参加者が集まるのか心配する声もあったが、いざフタを開けてみれば全クラスとおして最多出場となる13台16名。大抵は新しいクラスが新設されると最初は台数が少なく、徐々に参加者が増えていくのだが、新設されたクラスがいきなり最多出場台数を誇るということは、それだけ86、BRZに期待しているユーザーが多いということだろう。このクルマが世の中に登場してきた直後は「パワーが足りないから面白くないぞ」という意見もあったが、なんのなんの。PN部門の装着タイヤがラジアル化されたこともあって、パワーとグリップのバランスが非常に良くなったのだ。このあたりのページでも解説するが、確かにセッティングが難しい面はある。いや、アジュール川村誠氏も語っていたが、ある程度までは誰が乗ってもタイムが出る。タイムを突き詰めていくとなると一気にセッティングが難しくなるという。ただ、選手に「乗ってみておっ」と聞くと、「楽しいクルマです」という答えが必ず返ってくるのだ。最近、そんなクルマになどお目にかかったことはない。なにより格好いい。それだけで気持ちが高揚する。みんなも乗ってみないか？